



人形小割帳 トツカ

人形小割帳

文樂五月狂言より……………

吉田玉市

晝之部

淺草雷門のだん

どちよう

見物人

詰。(兵次、小紋、榮市、光次)

亭主

宗六

勘九郎

おのぶ

太夫がわり

宗六

どちよう

勘九郎

吉原揚屋のだん

宮城野

宮里

宮榮

おのぶ

禿

やり手

宗六

玉徳(左、光司、足、藤一)

詰。(兵次、小紋、榮市、光次)

詰。(萬次郎)

政龜(左、兵枝、足、龜之輔)

玉市(左、常次、足、駒三郎)

紋司(左、兵次郎、足、小紋)

政龜(左、兵枝、足、龜之輔)

玉徳(左、光司、足、藤一)

玉市(左、常次、足、駒三郎)

光造(左、玉米、足、紋太郎)

宗六田、駒三郎)

龜夫(左、龜松、足、光次)

兵次(左、兵枝、足、龜之輔)

紋司(左、榮三郎、足、玉男)

宗六田、光次)

小紋(足、榮市)

萬次郎

政龜(左、門造、足、藤一)

かいしやく (萬次郎、龜之輔、光次)

辨慶上使のだん

卿の君

玉男(左、光造。足、光次)

侍従太郎

玉徳(左、光司。足、駒三郎)

花の井

紋太郎(左、兵枝。足、小紋)

しのぶ

紋司(左、小兵吉。足、龜夫)

おわき

龜松(左、玉米。足、兵次郎)

辨慶

玉助(左、多三郎。足、藤一)

侍従太郎

玉徳(左、光司。足、駒三郎)

花の井

紋太郎(左、兵次。足、小紋)

辨慶

玉助(左、多三郎。足、玉男)

かいしやく

萬次郎、龜之輔、榮市、光次

水漬く屍

榎 麓

玉市(左、兵次。足、紋司)

太市

紋太郎(左、兵枝。足、榮市)

上田

光造(左、光司。足、光次)

上田母

小兵吉(左、常次。足、龜夫)

かやし二

横山

玉助(左、玉徳。足、藤一)

上田

光造(左、光司。足、兵次郎)

かやし三

市右衛門

門造(左、多三郎。足、駒三郎)

母

小兵吉(左、常次。足、龜夫)

かいしやく 萬次郎

野崎村の段

お 光

龜松(左、玉徳。足、兵次郎)

かいしやく

萬次郎、光次、龜之輔、榮市

お 染

榮三郎(左、玉米。足、龜夫)

下女およし

玉男(左、玉助。足、光次)

久 作

政龜(左、光司。足、藤一)

久 松

紋太郎(左、常次。足、駒三郎)

久 作

政龜(左、光司。足、藤一)

久 作

政龜(左、光司。足、藤一)

お 光

龜松(左、玉徳。足、兵二郎)

かごつめ

萬次郎、龜之輔

お 勝

多三郎(左、兵次。足、龜之輔)

かごつめ

常次、小紋。

船頭竹松。

兵次(足、駒三郎)

まく木

萬次郎。

夜之部

紅薔薇の段

維 茂

玉助(左、多三郎。足、藤一)

更科姫

紋十郎(左、龜松。足、紋司)

重 野

紋太郎(左、兵枝。足、常次)

静 野

兵二郎(左、駒三郎。足、光次)

山 神

紋十郎(左、龜松。足、紋司)

悪 鬼

紋十郎(左、龜松。足、紋司)

かいしやく

人形。(龜夫、龜之輔)。枝、

扇。(小紋、引換き(萬次郎)

衣裳(玉徳、兵次、玉市)

衣裳(玉徳、兵次、玉市)

新關の段

お 袖

榮三郎(左、玉米。足、龜夫)

つ め

(兵次、萬次郎)

志津馬

光造(左、光司。足、兵次郎)

助 平

玉市(左、政龜。足、玉男)

かごつめ

(常次、駒三郎)

林左衛門

多三郎(左、藤一。足、光次)

眼 八

玉徳(左、兵枝。足、小紋)

政右衛門

榮三(左、門造。足、紋司)

竹やぶ

榮三(左、門造。足、紋司)

政右衛門

榮三(左、門造。足、紋司)

取 巻

(萬次郎、常次、駒三郎)

ちようちんづめ(紋太郎)

岡崎のだん

お 袖

榮三郎(左、玉米。足、龜夫)

志津馬

光造(左、光司。足、光次)

母 親

多三郎(左、兵枝。足、小紋)

眼 八

玉徳(左、紋太郎。足、藤一)

幸兵衛

門造(左、常次。足、駒三郎)

志津馬

光造(左、光司。足、光次)

太夫がわり切

眼八

玉徳(左、常次。足、駒三郎)

政右衛門

榮三(左、玉市。足、玉男)

取巻

(光司、紋司、兵次、紋太郎)

かいしやく

(萬次郎)

幸兵衛

門造(左、玉助。足、兵次郎)

小頭

藤一(左、玉米。足、光次)

母親

多三郎(左、兵枝。足、小紋)

眼八

玉徳

あるき

お谷

夜まわり

幸兵衛

母親

志津馬

お谷

お袖

眼八

かいしやく

(兵次)

文五郎(左、常次。足、駒三郎)

紋太郎(左、兵次。足、龜之輔)

門造(左、紋太郎。足、兵次郎)

多三郎(左、兵枝。足、小紋)

光造(左、光司。足、藤一)

文五郎(左、常次。足、駒三郎)

榮三郎(左、玉米。足、龜夫)

玉徳左、ナシ。足、龜之輔)

玉徳左、光次、榮市、兵次)

堀川與次郎内

おつる

與次郎母

與次郎

かいしやく

おしゆん

傳兵衛

母

さるまはし

與次郎

さる

紋司(左、紋太郎。足、光次)

政龜左、光司。足、駒三郎)

玉助(左、玉徳。足、玉男)

(萬次郎、光次、龜之輔、榮市、小紋)

紋十郎(左、玉米。足、龜夫。さはり、紋司)

龜松(左、多三郎。足、兵次郎)

政龜(左、常次、足、駒三郎)

玉助(左、玉徳。足、藤一)

兵次(光次)

(吉永記)

文學と文樂

太宰施門

▽二十歳代です仕事と三十代での仕事、また四十代のと三通りあるのを順々にやつて行く。出来のよい人は速く仕上げて進級するが、鈍い人はもつとかかる。やつと全部を卒業して五十になるとする。それからが一人前の人形使ひである。そこまで行かないで倒れたら、氣の毒だが犬死になると、その道の或る巨匠が語つたといふことを私は人から聞いた。

そして直ぐ大きく首背いて、ほんたうの修行はさうなくてはならぬもの、それに決つてゐる筈なのに、何うして人は焦り立つて一日も早く、二十歳のうら若さで五十以上の人のする仕事に手を出さうとするのであらう。基礎を十分に念入りに、確實に築き上げてからのこ

とでないと、後の努力がみな無駄になる。歌舞伎や文樂の世界で私の知つてゐる事實は、今までみなこの狂はない眞理を裏書きするものばかりであつた。

▽同じことが矢張り文藝の研究、特にフランス文學のそれについて言はれはしないだらうかと私は思ふ。この頃出る色々の出版物や雑誌その他に載るもので、私の眼に觸れた中には殊に、この大切な用意を缺いた製作が非常に多い。何うしても絶対に永いあひだこの文學の足をつかひ、左手を動かし、さうして後に初めて首と右手へかかるのである。先を急いではならない。ゆつくり腰を落ちつけて何十年も下積みの修行をしたら何んなものであらう、と前の事からふとこちらの方へ私の考へを延ばして行つた。

(五月廿八日附東京新聞)